

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

(障がいを理由とする偏見や差別をなくそう)

1 主題「障がいを理由とする偏見や差別をなくそう」

2 主題設定の理由

障がいの中には、目に見えてわかる障がい（肢体不自由等）と目に見えずわかりにくい障がい（ADHD、自閉症スペクトラム等）がある。前者は偏見により差別されやすく、後者はその人の性格として差別されやすい。近年では目に見えずわかりにくい障がいがある生徒が増えてきており、生徒指導においても正しい理解と支援を必要とする。

学校生活では、障がいのある子の意思を尊重して、周りへの周知や支援についての指導をしている。しかし、その障がいを知られたくない子においては、周りへの十分な周知や支援について指導をすることができず、トラブルになる場面もある。

学習を通して、具体的な障がいの理解を深め、先入観をもたずに相手を正しく理解することを確認したうえで、日常の場面で、障がいがあるなしに関わらず、相手が困る場面を知り、相手を正しく理解して誠実に対応する心情を育てていきたい。

3 単元の目標

事例（動画視聴）を通して、「障がいを理由とする偏見や差別とは何か（相手を正しく理解する／すべてを助ける必要はなく、自主的にできることは尊重すること）」を考え、交流を通して理解を深めるとともに、よりよい人間関係を築こうとする意識を育てる。

4 単元目標

項目	問題解決につながる知識 (認識力)	共同的に学ぶ技能 (自己啓発力・行動力)	自他を大切にする 価値観および意欲 (自己啓発力・行動力)
規準	資料を通して、視覚的な情報だけで判断するのではなく、人それぞれに思いや困り感をもっていることに気付くことができる。	障がいとはどんなことをいうのかを仲間の考えと自分の考えを比較しながら聞き、お互いに気付くことができなかつた思いを共有する。	相手の立場に立って、何に困っているかを考えるとともに、本当に必要な支援は何かを考えて行動しようとするすることができる。

5 本時の目標

動画の視聴を通して、どのような場面で偏見や差別を理由として人権を大切にされていないかを考え、交流を通して日常の場面でも同様なことが起きていないかを振り返ったり、当事者としてどのような行動をとったりすればよいかを考えることができる。

6 本時の展開

時間	内容	◇指導・◆援助
導入 (わかる)	<p>1 イメージでもっている印象を確かめる。 発問「障がいと理由とする偏見や差別とはどのようなことをイメージしますか？」 <抽象的表現> ・健常者と違う生活 ・不自由 ・誰かの助けが必要 等 <具体的表現> ・視覚障がいなら、座席の位置などを配慮する必要がある。 ・手足の障がいなら、移動や授業での助けが必要ではないか。 等</p> <p>2 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 岐阜市の12の人権課題「障がいと理由とする偏見や差別」とはどのようなことをいうのだろうか。</p> </div>	<p>◇各自がプリントに自分の考えを書くように指導する。文章でも、箇条書きでもよい。</p> <p>◇抽象的な表現には「それは具体的な場面でいうとどんなこと？」などの深めの発問をして、具体的な単語を出す。</p>
活動① (わかる)	<p>3 動画の視聴（全体指導/電子黒板） <Youtube MOJチャンネル/人権啓発ビデオ 人権作文> 「わたしたちが伝えたい、大切なこと／手伝えることはありますか（6分50秒） https://www.youtube.com/watch?v=730GkcGMS3w ・内容を見て、気付いたことをメモする。</p>	<p>・事前に電子黒板の準備をしておく。</p>
活動② (深める)	<p>4 動画の内容について交流する。（学習班 ⇒ 全体） (1) 学習班で交流する。 ・動画を見て「偏見や差別」と感じる場面と、その場面に対してどのような言動がふさわしいのかを交流する。 (2) 全体で交流する。 ・意見を黒板にまとめる。 ○先入観（見た目、容姿、病名等）で決めつけない。 ⇒ できること、できないことを正しく理解する。 ○勝手に助けが必要という判断をしない。 ⇒ 相手の自主性を尊重する。 ○人に聞くのではなく、自分で語りかけてコミュニケーションをとる。 ⇒ 周りの情報に流されるのではなく、自分で確かめる。</p>	<p>◆動画の具体的な場面をあげる。 ◆客観的（当事者でない）な立場で対応を考える。</p> <p>◇「差別や偏見」に対する「望ましい言動」を併記して板書する。</p> <p>◇動画の内容から、「いじめ問題」として話が進まないように気を付ける。「障がいと理由とする偏見や差別」という観点を板書に示す。</p>
活動③ (育む)	<p>5 自分たちの学級の様子を考える。 「学級の中で実際に困っている場面や関わり方を考える」 (1) 学習班で交流する。 (2) 全体で交流する。 ○文房具などですぐ手遊びをする仲間には、学習班で一緒に考えることができるようにコミュニケーションを増やす。 ○集中力が続かない仲間には、話をする場面、ノートをとる場面など、細かいアドバイスが必要。 ○視力に係る支援は、タブレットなど活用して手元で見ることができるようにする。 ○相手が何に困っているのかを正しく把握する。 ⇒ 支援が押し付けにならないように配慮する心を育む。</p>	<p>◆日常の具体的な場面をあげる。病名は出さないが、ADHD や自閉症スペクトラムなど、各学級の実情に合わせた具体場面（困る場面）を想起させる。 ◆主観的（当事者として）な立場で対応を考える。具体的な手立て確認する。</p> <p>◇「それってどういうことをするの？」などの発問で、抽象的な表現を具体的な表現にかえる。</p>
活動④ (育む)	<p>6 本時の学びと振り返りを記入する。 ・これまでは、そういう性格だと見過ごしてきたが、困り感があったことに気付くことができた。 ・相手を理解するには、コミュニケーションが大事だ。</p>	<p>◇感想を数名に発表してもらおう。 ◇生徒のこれからの行動を価値付ける。</p>